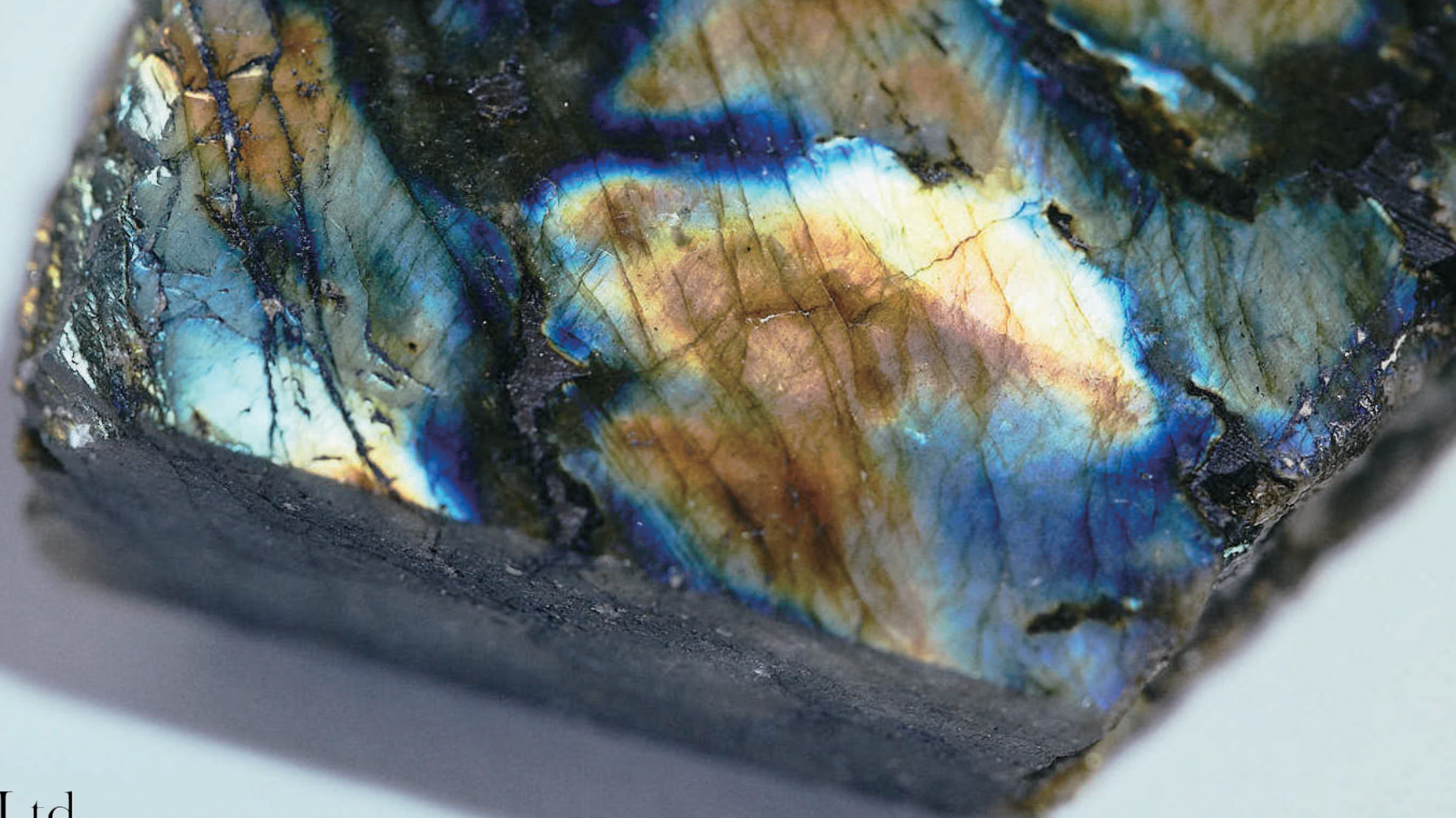




A&S Co.,Ltd.

SUSTAINABILITY REPORT 2024

EARTH | PEOPLE | COMMUNITY

CONTENTS

page. 2 | OUR MISSION

page. 3 | SUSTAINABILITY VISION

page. 4 | SPECIAL ISSUE

page. 8 | EARTH

page. 10 | PEOPLE

page. 12 | COMMUNITY

page. 14 | TO THE FUTURE



2024

OUR MISSION

MISSION

固定観念にとらわれない
自由な発想で新しい
モノ・コトを創造する

VISION

アジアを代表する
ファッションジュエリーの
リーディングカンパニー・
ブランドになる

VALUE

ALLFOR FANs

2024

SUSTAINABILITY VISION

私たちエーアンドエスはただ美しい物を提供するだけではなく社会にとってより良いことを考え
行動することが事業を継続する意味のひとつでありそこに生み出される喜びが
ジュエリーの価値を高めてくれると信じています。

ブランドを愛してくださるお客様、共に働くスタッフそして社会との関係に置いてより
多くの喜びや感動を分かち合うための3つの軸

EARTH・PEOPLE・COMMUNITY

これらを美しい輪を描くRINGのように循環させることで
持続可能な強いパートナーシップを築いていくことを目指します。



EARTH



PEOPLE



COMMUNITY

2024

「捨てない選択がつくる未来」
小さなビニール袋が緩衝材へ生まれ変わり、循環の輪を広げる

SPECIAL ISSUE

—— what we do

わずか半年で349kg。

従来なら廃棄されていたはずのビニール袋が、いま、(株)エーアンドエスの商品を守る緩衝材として新たな価値へと繋がっています。

(株)エーアンドエスでは、2024年8月よりビニール袋の回収・リサイクルを本格始動。2025年3月までに349kgのビニール袋の循環を行いました。回収した袋は専用の工程を経て緩衝材に生まれ変わり、店舗やお取引先への配送に活用されています。廃棄物を資源へ——そんな循環の仕組みづくりに、私たちは取り組んでいます。

当社とともに同プロジェクトを牽引してくださったのが、(株)ライブロンコーポレーション。開始から約1年がたったいま、取締役の安井さんとともに取り組みの軌跡を辿ります。





—— for a new challenge

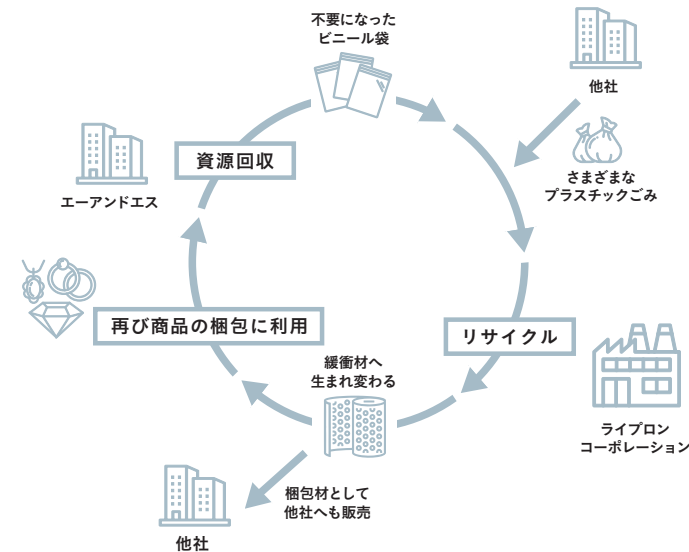
新たな挑戦に向けて。

ジュエリーを梱包していた大量のビニール袋を何か有効活用できないか、議論を重ねました。お取引先とも協業して、自社のビニール袋だけでなく他社からもプラスチックごみを回収し、緩衝材へとリサイクル。再び店舗やお取引先に商品を送る際に使用することで、多くの方が実感を持って資源の循環に取り組めるプロジェクトにしたいと考えました。

緩衝材の製作は、(株)ライブロンコーポレーションにとっても初めての挑戦。数台の新しい機械を導入し、何度も試作が重ねられました。中でも特に苦労したのが、色味の調整です。透明な緩衝材に仕上げるためには、回収前の素材をどれだけ丁寧に分別できているかが鍵となります。

この課題を解決するために、(株)エーアンドエスでは社内

に専用の回収BOXを設置し、店舗やお取引先へは回収マニュアルを作成いたしました。色の有無に応じてプラスチックごみを分類するだけでなく、まだ使えるものはリユースを呼びかけるなど、社員一人ひとりに分別意識を根付かせる取り組みを進めています。また、自社だけでなく、各所から資源を集約する倉庫の協力も得て、分別された状態で緩衝材に作り替える工程へと回しています。さらに、(株)ライブロンコーポレーションでも、人の手で丁寧な分別作業が行われています。



2024

—— from waste to wrap

緩衝材がカタチになるまで。

回収されたプラスチックごみは(株)ライブロンコーポレーションの工場へと運ばれ、複数の工程を経て緩衝材へと生まれ変わります。緩衝材へと仕上げる過程では、色味に加え、強度の確保にも試行錯誤を重ねました。完成品は第三者機関による品質検査や運送テストを経て、実用に適した仕上がりを実現しています。さまざまな方の協力を得て、緩衝材は実運用

へと至りました。

改めて、これまでの取り組みを振り返り、安井さんは「プロジェクトの成功は依頼者がどこまで当事者意識を持って臨めるかにかかっている。(株)エーアンドエスはこの取り組みが実現できるようにするための、体制構築からも気概を感じた」と語ります。

(株)エーアンドエスでは、当社のスタッフを含め、当社と関わるすべての方とともにサステナブルな社会を目指すことに意味があると考えています。

そのため、社内のスタッフに向けて日々、情報発信を行うことや、お取引先に向けて1社1社、取り組みについて伝えることを大切にしています。



2024

— one loop, many hands

ひとつの輪をみんなで支える。

この取り組みを通して、当社では「捨てるビニール袋」が格段に減少しました。さらに、費用がかさむイメージのあるリサイクル素材ですが、このプロジェクトによって生まれた緩衝材を使用することで、コストカットにも成功しました。お取引先からも、「リサイクル緩衝材を使いたい」「自社でもリサイクルをやりたい」といった声をいただき、徐々に循環の輪が広がりにつつあります。

しかし、当社にできることはまだまだ他にもあるはずです。リサイクルの前にリユースできるものがないか立ち止まること、他にも資源として再生できるものがないか探すこと、自社にとどまらず循環の輪を広げていくこと。社内外を巻き込みながら、さらなる取り組みを模索しています。

profile



安井 瑠作

(株)ライブロンコーポレーション取締役

複合機メーカーへの勤務を経て、2016年4月に(株)ライブロンコーポレーション入社。同年9月より単独でベトナム支社に渡り、本稼働に備えた工場の体制構築から携わる。2022年に帰国し、現在は国内外の様々なプロジェクトを牽引。

2024

EARTH

地球の限りある資源を有効に活用し、
環境に配慮した持続可能な事業体系を構築



作る、使う、そしてその先も。
モノの在り方を見直し。
無理なく続けられる環境配慮。

商品の廃棄率

2023年度 2024年度
0.2% ———> 0.1%

製造時に排出される、石膏の廃棄量削減

2024年度 2030年度
0% ———> 100%



サーキュラーエコノミー

商品を入れるビニール袋を回収し、発送時に利用する緩衝材へとリサイクルする循環の仕組みを構築しました。店舗・本社・お取引先様・リサイクル業者様と協業し、2024年8月～2025年3月までに349kgのビニール袋を循環いたしました。



環境配慮素材への変更

倉庫⇄店舗間の商品配送に使用するBOXを、パーム油搾油後のヤシカサを原料としてアップサイクルし、木材パルプの使用量を削減した環境貢献型素材のBOXに変更いたしました。



comvey 導入

繰り返し使えるエコな梱包材「シェアバッグ」をECサイトでの配送サービスにて取り入れ、環境に配慮した方法でお客様に商品をお届けする取り組みをスタートいたしました。



廃棄備品の寄付

店舗や本社の備品入れ替えによる廃棄予定であった、ボールペンやカルトン・リュックをタイに寄付いたしました。



PASS THE BATON MARKET 出展

NEW RECYCLEをコンセプトにしたPASS THE BATONに出展。デットストックの資材等を使用してジュエリーを製作し、廃棄資材の削減に取り組みました。

Photo by Smiles



無駄のない商品づくり

無駄のない商品づくりに取り組み、商品廃棄率が2023年度の0.22%から2024年度は0.13%になりました。

2024

PEOPLE

多様性を尊重し、協調性をもって、
人々の創造や学びを積極的にサポート



サプライチェーンへの取り組み。
「働きがい」の向上。

女性管理職比率

2023 年度 2024 年度
47% → 45%

育休取得率

2024 年度
100%

育休復職率

2024 年度
87%

寄付金額

2024 年度 TOTAL
380,785 円 3,953,908 円



サステナビリティ ビジョンの共有

店長・管理職にサステナビリティビジョンの説明会を行い、新入社員にはサステナビリティビジョン研修を導入し、社員への浸透を行いました。また、社外向けの説明会を開催し、お取引先へも浸透を行いました。



ピンクリボン活動への参加

10月1日～10月31日までの売上の一部166,000円を、日本対がん協会が乳がん征圧のために設けたほほえみ基金に寄付いたしました。



アニマルドネーション

対象商品の販売を通じて得られた売上の一部として、214,785円を、動物福祉活動を支援する団体アニマル・ドネーション様へ寄付させていただきました。



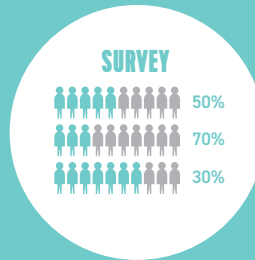
Sustainable Communication

社会課題と(株)エーアンドエスの取り組みを「Sustainable Communication サスコミ」として年13回社内報を通じて配信し、サステナビリティの理解・興味促進を行いました。



各種研修の実施

新入社員向けに「スキル支援研修」、既存社員向けに主体的にスキルアップが図れる「選択型研修」、またリーダーのキャリアアップのため、「ロジカルシンキング研修」を実施しました。



サーベイの実施

より良い組織づくりを目指し、社員アンケート(サーベイ)を実施したうえで、その結果を踏まえた課題の抽出と解決に向けた取り組みを進めております。

2024

COMMUNITY

それぞれのつながった輪をチェーンのように連結して、
今までにないコミュニティーを形成。
永続的な関係性となる礎を



サプライチェーンへの取り組み。
「働きがい」の向上。

地域貢献活動数（地域貢献活動を行った数）

2024年 — 5回

学校への支援数（学校支援活動を行った数）

2024年 — 2校



学校支援

次世代のクリエイター育成に貢献すべく、東京デザイン専門学校様および山脇美術専門学校様にて、当社の取り組みや業界の実務に関する講義を行いました。



クリーン活動の実施

本社スタッフとアガット青山本店スタッフによって、エーアンドエス本社とアガット青山本店周辺のクリーン活動を継続的に行いました。来店いただくお客様だけでなく、地域の方々にも心地よく過ごしていただくことを目的としています。



Digital Cleanup Dayに参加

2020年以降、175の国 約120万人が参加したDigital Cleanup Dayに〔株〕エーアンドエスも参加しました。



World Cleanup Dayに参加

世界191の国と地域 2,300万人が参加したWorld Cleanup Dayに参加しました。またNPO法人WORLD CLEANUP DAY JAPAN様にご来社いただき講義を行っていただきました。



二子玉川キッズアライズに参加

親子参加の体験型ポップアップイベントをアガットが初めて開催。子供たちに天然石に触れる機会や、石にまつわる知識を楽しく学べる場としても展開しました。



不要な子供服、ノートの寄付

リユースによる社会貢献活動の一環として、社員の協力のもと、不要となった子供服および未使用のノートを社内で募り、タイ国内で支援を必要とする子どもたちのもとへ届けました。

2024

私が当社に入社したときに感じたのは、「なぜみんなは、こんなに自社のブランドが好きなんだろう」ということでした。今となっては、私もそんな人間の一人となり、20年近い歳月をこの会社で過ごしてきました。

長い年月が過ぎるなかで、目まぐるしく社会の状況は変わり、多くの問題が浮き彫りになりました。ジュエリー業界も例外ではありません。環境汚染、労働環境の問題、後継者の不足など、課題は山積みです。この業界に携わる会社として、これらの課題と向き合うことは避けて通れません。

エーアンドエスの取り組みは、決して派手ではなく、まだまだ大きな変化は起こせていません。しかし、当社には人一倍、会社やブランド、そしてジュエリーに対する愛の深いスタッフが集まっています。

私は、サステナブルな行動は個人の思いから生まれると信じています。スタッフそれぞれの思いを生かし、地に足をつけて一步一步、次の時代へとバトンを繋ぐ、持続可能な事業運営を目指します。

代表取締役社長 稲瀬 修



TO THE FUTURE

